

会 議 録

1 会議名

令和6年度 第8回三郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○自主的な審議

（1）自主的審議事項について（公開）

3 開催日時

令和7年1月28日（火） 午後6時30分から午後7時25分まで

4 開催場所

三郷地区公民館 集会室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）

・ 委 員：保坂会長、片山副会長、小山副会長

稲葉（里）委員、稲葉（恵）委員、上原委員、梅川委員、小竹委員、
竹内委員、竹田委員、和田委員、渡部委員

・ 事務局：南部まちづくりセンター 大島所長、小池副所長、石黒係長

8 発言の内容

【小池副所長】

・ 12人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・ 同条例第8条第1項の規定により、議長は保坂会長が務めることを報告

【保坂会長】

・ 会議の開会を宣言

・ 会議録の確認：小竹委員、和田委員に依頼

— 次第2自主的な審議（1）自主的審議事項について —

【保坂会長】

次第2自主的な審議（1）自主的審議事項についてに入る。

事務局より説明を求める。

【小池副所長】

・資料No.1により説明

【保坂会長】

今ほどの説明に質疑を求める。

前回、大きな二つのテーマをあげて、いろいろな方から意見があったので、それを皆さんにわかるような言葉で、皆さんの意図するような言葉、思いが入るような形の文章にしたのが案1と案2である。

先回も皆さんからそれぞれ三郷に住み続けることになった理由をいろいろ話していただいた。様々なご縁で皆さんが集まったわけだが、お互いにいろいろな方たちの思いを聞くことで、他の人はこんなに考えているのかと、こんな機会がなければ知らなかったようなことを聞くことができ、私は大変良かったと思っている。

先般、三郷まちづくり振興会の主催で、三郷で活動していらっしゃる16の団体の人たちと情報交換会を開いた。皆さんは地域活性化のためにどうしたらよいかということで考えてくださっているし、各団体の長が集まって、他団体とのコラボや、相互支援について考えながら連絡調整ができればよいと思っている。

皆さん立派な団体でそれぞれ活動しているが、お互いの活動がなかなか見えていないこともあった。情報交換会を今年度は4回やることでお互いの状況がわかってきて、今まで単独で活動していた団体が助け合い、お互いに手伝う形でいろいろな団体と交流ができた。それぞれ無理のない範囲で三郷の地域活性化のために活動していることを感じた。

今日は、ここで皆さんが地域協議会委員として、三郷がどのようなことをすれば、もっと元気が出るのかなど率直な意見、どのようなことでもいいから話して欲しい。

今日ラジオで、「夢は大きく、幸せは小さなところから」というような言葉を聞い

た。夢はどんな大きなものでも掲げて、それを目指していけばよいけれど、そこで出会った、見えてきたことの小さな幸せを一つ一つ噛みしめながらやっていくと楽しくなる。といった感じの話だったが、よい言葉だなと思いながら聞いていた。出来そうにもないと思わないで、こんなことができると地域の人たちに喜んでもらえるかなとか、地域の人たちが笑顔になれるよねといった感じのことをイメージしながら話し合いが出来たらと思っている。

案1と案2について、いかがか。各委員から意見を求める。

【稲葉（里）委員】

今のお話を聞いて、私の中では、案2の地域全体で高齢者や子どもたちを支えあうまちづくりの推進についてというところで思ったところがある。今、会長がお話した、三郷地区にある団体の方々が、それぞれの団体で三郷地区を良くしようという思いで動いていらっしゃると聞いて、私はとても嬉しい気持ちになった。

私は、ENJOY35に所属しているが、他の団体は何があるか考えたときにはぱっと思いつかない。地域全体で支え合うまちづくりに必要なのは、その団体が何をしているか、どういう活動をしているかを三郷地区の人が知って、何かのきっかけで仲間入りをするコミュニティを作っていくということなのかと思っている。三郷地区に住んでいるいろいろな人が、そこにある団体の活動内容やどんな人がいるのかを知るということは、支え合うまちづくりの推進に繋がるのかなと思った。

【梅川委員】

三郷地域にいろいろな団体がある中で、小学校がなくなるとますます交流は減っていくのかというのもあって、今ほど、稲葉（里）委員もおっしゃられたように、地域としての行事に全体で取組むのは非常に良いことだと思うし、今行われている行事の他にも、もっともっと地域の人に関われるような行事を増やして、みんなで盛り上げられるような地域にできたら良いと思っている。

【竹内委員】

案2に関しては、私も稲葉（里）委員、梅川委員と同じで、団体の協力とその団体が何をしているかを明確にするべきではないかと思う。もしかしたら、やりたくてもまだ会に入っていない方々がいらっしゃると思うので、何かしらの情報を発信

するのはよいことかと思う。

案1に関して、魅力の発信方法はこの時代SNSを使うべきではないか。SNSをメインにして紙媒体も使用していくのが、今現在の流れになっていくのではないかと思う。

再発見マップを初めて見たが、すごく良くできている。こういった技術というか、魅力もあるし、幾らでも作ることができるのであれば、こういう紙媒体はもちろん残しつつのSNSの活用というのが一番大事なのではないかと思う。

【和田委員】

私も皆さんが言われたように感じたところはある。案1、案2について、これから実質的に審議を行って、魅力発信や高齢者から子どもたちが安心して暮らせるまちづくりのために、どうしたらよいかを全体で皆さんと一緒に考えていきたいと思った。

【保坂会長】

では、案1、案2に対して、皆さんこれでいいということで確認させていただいてよろしいか。二つの班に分けないで全員でどちらか順番を決めて取組むということで、確認させてもらった。順番については、まだ決めてなかったかと思う。順番について皆さんどう思うか。取組例とすれば、三郷区のよいところを見つめ直すということで具体的に発想しやすい部分が案1で、案2については、非常に興味関心があったりする部分ではあるが、じっくり構えなくてはいけない内容であると私は思っているが、皆さんどうか。

(意見なし)

会長の意見で申し訳ないが、案1については、皆さんから意見をたくさん出していただいて取組みやすい内容であるが、案2については、じっくりいろいろな人と相談しながら関わる内容も多いので、案1を先にして、それが終わり次第、あるいは、ある程度目途がついたころから案2に取りかかるという形でやっていけたらと思っている。

賛成の方の挙手を求める。

(挙手多数)

では、皆さんで案1の内容について最初に取り組み、様子を見て案2に取り組むという形でやっていきたいと思う。

早速だが、案1の三郷区の人や自然などの美しい風景の魅力発信についてということで、先ほど竹内委員からSNSをメインとした発信方法はどうかと具体的な話も出たが、事務局からいくつか取組例を書いていたので、この辺を皆さんともう1回確認しながらより具体的なイメージ、あるいは、具体的な発想を皆さんで深めながら、具体的にどんな形ができるのか、どんなふうにやればよいのかを出していけたらよいかと思っている。

三郷区の良いところを見つめ直すということで、まず、具体的にどんなことがあるか、前回出た部分もあるが、もう一度みんなで確認作業をしていきたいと思う。委員に意見を求める。

【稲葉（恵）委員】

三郷地区でなくても、どこでもあるかと思ったりもするが、妙高山や米山も見えるし、田園風景はやはり魅力なのかと思う。

【保坂会長】

妙高山ばかりではなくて、米山も見える。

【稲葉（恵）委員】

我が家から両方見える。そんなところしか思い浮かばない。

【上原委員】

良いところの風景で妙高山がある。三郷小学校の屋上を利用して写真コンテストとか、星空を眺める会みたいなものはどうなのかなと思っている。

【保坂会長】

屋上から見た周りの風景や妙高山はまた一味違う。危険性がなければとってもいい会場だと思う。

【小竹委員】

今まで皆さんが出したような感じだと思う。我が家も米山から妙高山まで回りが全部見える。

【竹田委員】

この辺の人と集まるといつも野菜の生育状態を確認し合ったり、お米を自宅で作っているとか、農業が離せない感じなのかなと思うので、それがすごいなと思う。街中の駅の近くの人、どっちもやっていないだろうから、そこが三郷の特徴というか、良いところではないかなと思う。米や野菜を作っているという、農業に生活が密着しているのではないかなと思う。

【保坂会長】

前期には、ある委員から三郷米をブランド米としてやりたいというような話も出ていたので、お米を作っている人たちはそれなりのプライドを持ちながらやっている、とても大事なことだと思う。これから基盤整備もして、また、お米もたくさん作ったり、担い手さんもいらっしゃるのでとても大事なことだと思う。

【渡部委員】

学校のグラウンドの築山あたりから見る、田んぼとか畑とかの開けた感じがすごく好きで、農業をしている人も多いので、そこは好きなところだなと思うし、それに携わっているところで、今、すごく野菜が高騰しているが、家でたくさん作ったからと分けてくれる、その人間性もすごく良いところだなと思うので、風景や農業、自然の風景の中にも人がいるところが、私は好きだし良いと思う。あとは祭りごとがあればみんな出てきている雰囲気とかもいいのかなと思う。行事ごとに頑張っ出てくるおじいちゃん、おばあちゃんとかもすごいなと思っていて、そこも素敵だ、なって思うところの一つである。

今、小学生の子どもがいるが、農業体験とかのお手伝いにボランティアで出てきてくれる地域の方も、頼ればすごく熱心に教えてくれる。今の子どもたちからしたら、ちょっと怖いなと思っても、やってくれる人は責任感を持って教えようという気持ちでやってくれる。頼ればきちんと返してくれるところとか、三郷だけではないとは思いますが、地域のことにに関して、自分の子どもとかお孫さんとか関係者がいない学年の保護者の方や地域の方もすごく協力してくれるところも素晴らしいところだなと思う。

【保坂会長】

「教えてやるよ」というアピールはあまりないが、聞けば「そうだね。まかしてお

きない」という感じで、いろいろ教えてくれる人が確かに多いと思う。

【片山副会長】

皆さんは自分の感覚として慣れていると思うが、先ほど小学校の話が出たが、選挙に行って帰り道に廊下から山を見ると「あれっ」と思うぐらい感激を受ける風景がある。先ほど星空の話が出たがものすごい。ちょっと遅く帰ってきてポッと上を見ると、もう落ちてくるのではないかと思うぐらい綺麗な、ものすごく迫力のある星空が見える。農業も三郷の秋の収穫期になると黄金色の絨毯が地域一面を覆い尽くす。これもすごいなと思う。その三つがすごいなあとと思うのと、もう一つは、大きな上越市のまちとしての場所がよい。町場より私たちのところはすぐ、どこかへ行こうと思えば、高速もある、バイパスもある。すぐ足が伸ばせるところ、他の地域へもすぐ出かけられるところもいいのかなあと思う。

【保坂会長】

皆さんからいいところを出してもらったが、次に三郷の魅力を守っていくにはどうしたらよいかご意見いただきたい。

【小山副会長】

守っていくにはどうしたらいいか。農業にしても、今は父や祖父が田んぼをやってくれているが、それを引き継いでいってくれる人たちがいなくなったりするのが、今危機的な感じではあるかなと思う。それをどうしたらよいかと言われると、どうしたらよいかわからない。風景とか変わっていってしまうものは仕方がないが、写真に撮って残すとか、お話をした後々の人たちに繋いでいくということはできるのではないかなと思う。また、私ごとだが、春駒もなかなか踊り手が集まらない中、今、先生として教えてくれる人も上越にいないので、毎回の練習も大変である。他のところはどうしているのかなと思ったりするので、三郷ではないところとの情報交換もできればよいなと思う。

【保坂会長】

写真、文字ベース、DVDなどに残せるものは残せるが、文化芸能とか人を通してどんどん世代を超えて残していかなければならないものについては、なかなか難しい。あと、魅力を守っていくことについてはどうか。

【稲葉（里）委員】

小山副会長もたくさんおっしゃっていただいて、本当に考えているところだが、現状にある魅力を守っていく、これを維持していく、維持して継続していくというのは難しいことというのはすごく感じている。もちろん人も変わるし、いろいろな気候変動、地球自体が変わっているから、環境も変わっていくのだろうなというのをすごく思うところはある。

私はこの三郷区が大好きだし、三郷区が光り輝く場所であってほしいと思う。しかし、これを守っていくと考えたときに、答えは出ないというところが正直なところである。今あるものを大切にしていく。今のこの現状をその瞬間、瞬間で大切にしていくという受け取り方のほうが、もし守っていくとしたら、守れていなかったら申し訳ないという気持ちにもなりそうなので、今のこの瞬間を見つめていくという感じが継続していくと、結局は守っていっているような状態になるのかなと思う。

【保坂会長】

今あるものを大切にしていくということは、まず、大切にしようとする気持ちの共有化をしなければならないし、それをしてから具体的にどうすればよいかを皆さんで知恵を絞り合って、具体的な方法にということで、キーワードは「今あるものを大切にする」この気持ちが大事ということか。それが具体的なものに落とせるなら具体的なものをやればいいし、例えば、春駒だと自分たちだけではなくて、他でやっているところとの交流をしたりして知恵を拝借したりとかという形で、どんどん広まっていくかもしれない。

皆さんからたくさん意見を聞きたいので、次の三郷区の魅力などを情報共有するにはどうしたらよいか。難しい問題になってしまうが、漠然としたものでもよいがどうか。

【梅川委員】

情報共有するという面でいうと、私もいろいろなところから聞くのだが、有線放送が無くなった影響が大きくて、例えば、地域の行事にしても有線放送で朝放送があれば、今日何かあるというのがわかるし、今の時代だとSNS等を使ってやってもよいのかと思うが、お年寄りが果たしてSNSをどこまで見られるのかというの

があると、紙もある程度大事なのかなというところで、若い人はSNSで情報を共有できるが、お年寄りの方に対してどうしたらよいかは、私は今のところ紙しか思い当たらないので、有線に変わる地域に情報共有できる何かコンテンツがあればよいのかなとは思う。

【竹内委員】

先ほどお話したとおり、SNS中心がよいと思う。先ほど梅川さんもおっしゃったとおり、やはりSNSを使えない方々というのは世帯単位で見ればかなりいらっしゃると思う。若者もいて、お年寄りもいれば情報共有があるとは思いますが、お年寄り夫婦だけというところは、SNSは全然わからないという方々がほとんどだと思うので、そういうところはやはり既存の回覧版とか、配り物は地域で月に1回か2回は配られていると思うので、そういうところを利用するのがよいと思うし、SNSを始めるにあたって、最初は紙等の媒体での宣伝というか、広告が必要になってくるのではないかな。そこからどれだけ人数が増えるかは別として、まずは紙である程度地域の方々に認知を広げてからのスタートをするべきではないかと思う。

【保坂会長】

先日の情報交換会のときに、ある方から、1月の下旬の回覧版はいろいろな種類があって、地域でのお知らせがその間に入ってしまう、紛れていて認知度が下がる。いろいろな配布依頼があるが、地域のものでできるだけ上にして、地域外のものとは下にしてもらうなど工夫して配ってもらえるとありがたいといった意見が出た。それはちょっとした配慮で、やはり上にあるものから皆さん見るだろうし、厚いものの中に1枚の薄いペラペラが、それも白っぽい色だとちょっと埋もれてしまうので、同じ紙ベースでやる場合も、配り方一つでというのもあったり、本当に有線放送がないと困るという部分がある。そうしたときに、こういう紙もちょっと工夫するだけでよいといったお話が出た。

【和田委員】

魅力発信をどこに向けてするのかで大分変わってくると思う。三郷区の方に、「今こういう行事をやっている、こういうことがありました。」という発信をして、三郷に住んでいる人たちが魅力を感じられるのか、三郷区以外のところの人にアピール

して、いろいろな人に来てもらうイベントとかをするのか、または、移住する人が増えるためのSNSの活用なのかで、いろいろな方法が変わってくると思う。

農業をする人もどんどん減ってきていて、担い手不足を解消するにはいろいろな県外からとか来てもらって、農業に携わる人を増やして、農業体験をしてもらったり、そういうアピールをどこにしていくなかで、紙だったりSNSだったり、やり方が変わってくるのかなと思った。

【保坂会長】

では、良いところ、魅力を守るにはということと、情報発信するにはということで、今まで話をお聞きした。魅力発信の方法について、紙やSNSとかも含めて議論したが、実際、良いところを発信する内容として、どんなことができるか具体的に皆さんでまた確認していかなければならない。

最初に2班に分かれたときに、写真を撮ってみたいな話が出ていたと思う。具体的な取組として、先ほど上原委員から、三郷小の屋上から青空を見る会をやったり、写真コンテストというようなことも出てきた。以前話をした具体的な取組の中で、こういう風景、農業に携わっている作業風景だとか、黄金の絨毯の様子だとか、そんなのも含めた写真、良いところの写真コンテストが今までの中で出てきた。具体的にこんなことをやれると、この情報発信に向けて三郷の人たちの魅力を発信しながら、人と人をつなぐ活動もこの中に入ってこられたらよいと思う。

妙高山でも、さっきのマップにあったように、春もよし、冬もよし、秋もよしと。田植えをして、あまり、稲が伸び切らないときに水を張った状態だと、鏡になるような感じの妙高山とか四季折々の風景でもそんな感じになるし、黄金の絨毯の稲でもコンバインがいっぱい動いていると、あれもすごく壮大であるし、そんな写真コンテストとかいろいろな題材はあると思う。行事は出てこなかったが、例えば、三郷小学校でやっていた夏祭りみたいな、一生懸命賑わっているところで写真を撮らせてもらって、記録を残したりするのもとても楽しいと思う。

【片山副会長】

今、いろいろ会長さんの方で言っていて、すごく共感するところと自分は今、時々すごいなあと思って見ている春駒のDVD。最初の出だしをドローンで撮

っている。あれはワクワクする。ドローンで西松の木の上空を飛んでいく映像は、これから何が出てくるのかなあと期待感がある。私が思うのは、例えば高校生が将来どこかに出て行ったときに、やはり三郷に戻ってきたいというか、こっちで住みたいなと思わせるようにしていくようなことも、DVDの中に含める工夫も織り交ぜていくと良いのかなと思った。特にDVDは皆さん見たほうがよいと思う。

【保坂会長】

三郷小の閉校記念でDVDとか、記念誌を作りたいような話も出ているので、そんな中で何か一緒にやれたらいいと思う。2、3年前にENJOY35でドローンの講習会を行った。結構いろいろなことをやっていて、いろいろなものが残っているが、それをもっとうまく活用して何かするというのも大事なこともかもしれない。三郷区の人や自然など美しい風景の魅力発信について、皆さんからたくさん意見を出していただいて、具体的な取組もちょっと出てきた。

今回はこれをもとに、また事務局と正副会長で、これを具体的にやるにはどんなことからしたら良いかということで、より具体的な部分を皆さんに次回提案していけたらよいかと思っている。

- ・他に意見を求めるがなし

以上で次第2 自主的な審議（1）自主的審議事項についてを終了する。

— 次第3 事務連絡 —

【保坂会長】

次第3 事務連絡に入る。

事務局より説明を求める。

【小池副所長】

- ・第9回地域協議会：2月25日（火） 午後6時30分から 三郷地区公民館

【保坂会長】

事務局の説明について、質問のある委員の発言を求めるがなし。

【保坂会長】

本日の議題は全て終了した。

- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。